

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	人間福祉研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学生課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究科の目的、方針とカリキュラム構成(科目群)との関連を検討し、見直す。	→大学院諸問題検討委員会における検討数。	B	B	A	A	A
2. 研究科のカリキュラム編成における体系と各授業科目の配置を見直すと共に、それに基づいてカリキュラムを改正する。	→大学院諸問題検討委員会における検討数。	B	B	A	A	A
3. 大学院生による各授業科目の教育内容をアンケート調査等により評価する。	→大学院生を対象としたカリキュラム編成や配置されている授業科目の評価を目的としたアンケート調査報告書の作成。	C	C	C	B	B
4. 高い実践能力や実証研究能力の涵養という目的と各授業科目との適合性をアンケート調査等により評価する。	→福祉現場で働く福祉職員や他の大学院教員によるアンケート調査の報告書の作成。	D	D	C	C	C

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学院諸問題検討委員会において、研究科の目的、方針とカリキュラム構成の見直しについて継続的に検討を重ね、カリキュラムを交互作用系科目、社会系科目、人間系科目、共通科目に再編成し、科目を各群に配置した。また再編成したカリキュラム群と履修モデルを合わせて、授業科目履修心得に記載した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 人間福祉研究科の特徴を踏まえてカリキュラム群を再編成し、履修モデルと合わせて広報したことにより、科目選択、履修登録の際に、学生の選択のみならず教員の履修指導に資することができた。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も大学院諸問題検討委員会において定期的に検証する。	☆
		その他	☆

目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学院諸問題検討委員会において、研究科の目的、方針と照らしたカリキュラムの再編成のみならず、新規の科目追加や名称変更などについて検討し、研究科委員会で審議・決定の後、履修心得に記載した。またそれに伴い、履修のしやすさを保証するために、時間割についても教員の協力を仰いだ。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学生のニーズに沿う科目が増え、選択肢が広がった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も授業アンケートなどにより、検証を継続する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学院生を対象としたカリキュラム編成や配置されている授業科目の評価を目的としたアンケート調査を年2回実施し、大学院諸問題検討委員会を経て研究科委員会に報告した。個々の授業へのコメントは担当教員へ通知している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年春学期の授業評価の回収率は50%を超え、また各授業とも概ね非常に良い評価を得た。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後とも授業評価を継続すると共に、回収率の向上や内容の充実に向けて、検討を継続する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標4	C	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学院諸問題検討委員会において、高い実践能力や実証研究能力の涵養という目的と各授業科目との適合性をどのように評価するかについて、課題への意識はあるものの具体的な議論には至らなかった。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か アンケート調査等の実施には至らなかった。適合性の評価の方法について再検討する必要がある。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 大学院諸問題検討委員会ならびに研究科委員会において、高い実践能力や実証研究能力の涵養という目的と各授業科目との適合性の評価に対する方法について、実現可能性を再検討し、具体的な方法を決定し、実施する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆